

教科目名 環境計画 (Environmental Planning)

学科名・学年 : 土木工学科 5年

単位数など : 選択 1単位 (後期1コマ, 学習保証時間 22.5時間)

担当教員 : 亀野 辰三

授業の概要			
<p>土木工学を学ぶ人にとって、「環境」に関する理解を深める必要性は他の分野の人たちよりも一層高いものがある。なぜなら、河川、産業廃棄物処理、道路、鉄道、港湾、橋梁などは、どれ一つとっても人間が活動する上で必要不可欠のインフラであるが、自然に直接手を下して構築するものであり、長期間にわたって環境に多大な影響を与え続けるからである。そのために、人間活動と自然あるいは地球環境をどのように調和させて事業を進めていくことができるかが、現在、厳しく問われているのである。「環境計画」が扱うフィールドは、もちろん環境問題であるが、わが国の高度成長期に「環境問題」は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭といったいわゆる産業公害を指していた。しかし、今日の環境問題は、地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、砂漠化等という分類で捉えられている。環境問題の解決には、そのようなある枠内で捉えられる個別の現象だけではなく、自然環境に人間活動が働きかけることによってもたらされるさまざまな変化などを的確に捉える必要がある。したがって、環境計画では、人間活動を規定している政策、法律、社会経済、技術、ライフスタイルなどの幅広い視点から計画を検討し、それが環境に及ぼす複雑な影響を対象として考えることが重要である。</p> <p>以上の問題意識を踏まえ、本講義では、最初に、社会経済のグリーン化及び地域社会における環境保全活動について講義を行い、その後、学生諸君がまとめたレポートをもとにプレゼンテーションを実施して、環境問題解決へ各自ができることを考える場を創出したい。後半は、「誰が環境問題を解決するのか」をテーマに、企業社会といわれる日本において、環境問題を解決するさまざまな動きや法的な社会規制のありかたを講義したい。</p>			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (B2), JABEE 目標 (c) (d1⑤) (g)	
<p>(1) 環境問題の過去、現在を、その背景、政策、制度を通して現状認識ができる。(定期試験)                  (2) 前半で学習する内容について、事例を調べてレポートにまとめることができる。(レポート)                  (3) 前半で学習する内容について、事例を調べて発表と討論ができる。(プレゼンテーション)</p>			
回	授業項目	内容	理解度の自己点検
1 2 3 4 5~7	1. 公害から環境問題へ (1) 公害の発生と地球環境の問題 (2) わが国の環境行政 (3) 地球環境問題  2. 環境保全活動  3. プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公害と地球環境問題について理解する。</li> <li>○戦前から戦後にかけての公害問題・環境問題の歴史について理解する。</li> <li>○典型7公害とその現状、及び公害防止計画について理解する</li> <li>○京都議定書の内容について理解する。</li> <li>○地域社会における環境保全活動について事例とともに学ぶ。</li> <li>○レポートにまとめた内容についてプレゼンを行う。</li> </ul>	【理解の度合い】
8	後期中間試験		
9 9 10 11, 12 13 14	後期中間試験の解答と解説 4. 社会経済のグリーン化 (1) 環境マネジメント (2) 地域通貨 (3) 交通需要マネジメント 5. リサイクル社会がつくる循環型社会 (1) 環境基本法と環境基本計画 (2) 環境アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>○分からなかったところを理解し、環境マネジメントの基礎を学ぶ。</li> <li>○地域通貨やエコマネーの意義と特徴について理解する。</li> <li>○TDMの意義と手法について事例とともに学ぶ。</li> <li>○環境基本法と環境基本計画について理解する。</li> <li>○環境アセスメントの概念と手法について理解する。</li> </ul>	【理解の度合い】
15	後期期末試験		【試験の点数】 点
	後期期末試験の解答と解説		
履修上の注意	参考図書からレポートを課すので、各自で事前に購入しておくこと。		【総合達成度】
教科書	石井・湯沢編著、『環境計画総論』, 鹿島出版会		
参考図書	『環境再生と日本経済—市民・企業・自治体の挑戦』, 岩波新書		
関連科目	交通工学, 社会システム, 景観デザイン, 地域計画学, 公園緑地計画		
総合評価	達成目標の(1)~(3)について定期試験とレポート及びプレゼンで評価する。 総合評価=0.7×(2回の定期試験の平均)+0.3×(レポート&プレゼン) なお、授業態度により、評価点からその20%を上限として減点する。 総合評価が60点以上を合格とする。		【総合評価】 点